

いなかがおか)



II

2015

No. 169

東京都世田谷区歯科医師会会報
<http://www.setagaya-da.or.jp/>

東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅－XXXX I

下馬部会 齋藤賢一

前回お話したハンピの世界遺産から北に160kmのところにもう一つの世界遺産パッタダカルの寺院群があります。近くにバーダーミ、アイホーレの寺院群もあります。以前遺跡の旅Ⅶでこれらの寺院群のお話をしましたが今回20年ぶりに再訪いたしましたのでそのお話をしたいと思います。

6世紀デカン西部で勢力を持ったプラーケシン1世はバーダーミに都を定め繁栄の基礎を作りました。孫のプラーケシン2世のときにはデカン全域を超えて東方や南方へも進出しました。東方には弟のヴィシュヌヴァルダナを派遣してアーンドラ地方を治めさせました。南のパッラヴァ朝と戦を繰り返し一度は勝利したものの、大敗して都をパッタダカルに移しました。753年にラシュートラクータ朝に滅ぼされ前期チャールキヤ朝は滅びました。この間前期チャールキヤ朝は沢山の寺院を建立しました。

今回は前期チャールキヤ朝のアーンドラ地方に建立されたアランプールの寺院群を見学します。20年前には時間の関係で訪れることが出来ませんでした。ハイダラバードから220km約5時間でクルヌールの町に着きます。ここに宿泊して翌日アランプールの村へ行きます。今は何も無い小さな村ですがトゥンガバドラ川とクリシュナ川の合流地点で、インドでは川の合流地点は聖地としてとても崇められています。プラーケシン2世から派遣されたヴィシュヌヴァルダナは7世紀初頭には独立した王朝、東チャールキヤを確立しました。その建築活動の主な中心地が今は面影の全くないアランプールの村です。トゥンガバドラ川に面して9つの寺院が集まって建立されており、少し離れたところに2つ寺院が建っています。まず始めに一番離れたパバナシ (PAPANASI) 寺院群を訪れます (写-1)。パバナシェーシュヴァラ (PAPANASESHWARA) 寺院を中心に10以上の小さな寺院が境内に集まっています。アランプールの寺院の中では最も新しく、ラシ



写-1 「パバナシ寺院群」

ユートラクータ朝から後期チャールキヤ朝への移行期の9～10世紀に地方の豪族によって建立されました。司祭の話によりますと本来、川の反対側にあったものをここに移築したとのことでした。中心のパバナシェーシュヴァラ寺院が一番大きく、開放的な前室の柱は彫刻が面白く神話が緻密に彫刻されています。ここで注目すべきは前室の天井です。中心にシヴァ神の踊る姿ナタラージャが彫刻され、その周囲を8つの方位神 (DIKPALAS) が彫刻されています (写-2)。この方位神についてお話ししたいと思います。方位神とは読んで字のごとく各方位を守る神のことで、乗り物に乗っているのだんな乗り物かで神がわかるし、方位もわかります。北は財宝神クベーラ乗り物は馬かマンガ



写-2 「パバナシェーシュヴァラ寺院の天井」

ース、北西は風神ヴァーク乗り物はライオンかカモシカ、西は水神ヴァルナ乗り物は想像上の動物マカラ、南西は太陽神スーリヤかニルティ乗り物は7頭立ての馬車か人間、南は冥界神ヤマ乗り物は水牛、南東は火神アグニ乗り物はサイか羊、東は雷神インドラ乗り物はゾウ、北東はイーシャナかチャンドラ乗り物は牡牛です。この寺院では天井に彫刻されていますがほとんどは寺院の身舎や屋根に彫刻されています。

つぎにサンガメッシュヴァラ (SANGAMESHWARA) 寺院を訪れます (写-3)。チャールキヤ朝で最も早く建てられた寺院でプラーケシン1世により建立されました。



写-3 「サンガメッシュヴァラ寺院」

元はアランプール郊外にありましたが、上流にSRISAILAMダムを作るため現在の場所に移築されました。6世紀中頃にこのような寺院が建立されたことは驚きです。彫刻は素晴らしく神々はもちろんのこと特に窓の意匠がこの後に続くチャールキヤ朝の建築に大きな影響を与えました (写-4)。入口の左右に門神とガンガー、ヤムナー女神を彫刻し (惜しいことにガンガー女神は欠如)、窓と窓の間の壁龕にはシヴァ神の色々な姿が彫られています。内部の柱の彫刻も見応えがあります。この寺院はシヴァ神に捧げられましたので前にシヴァ神の乗り物である聖牛ナンディを祀った小堂が建っています。

いよいよ村の中に入り9つのブラフマー寺院 (NAVA BRAHMA) を見学します。寺院は突き当たりのトゥンガバドラ川の川面に建っておりガート (沐浴場) もあります。とても川に近く、さらにこの前で川が湾曲しており、高低差もないので洪水になったら大変なこと



写-4 「サンガメッシュヴァラ寺院窓の意匠」でシヴァ神に捧げられた寺院です。建築年代は7世紀から8世紀でサンガメッシュヴァラ寺院よりも遅れて建てられました。9つの寺院は近接して建てられ、バーラブラフマー (BALA BRAHMA) 寺院だけは現在も使用され、巡礼の人々がひっきりなしに訪れていました。この中でよく保存され彫刻も素晴らしいのはヴィシュヴァブラフマー (VISHVA BRAHMA) 寺院 (写-5) とスヴァルガブラフマー (SVARGA BRAHMA) 寺院 (写-6) です。先ほどお話した方位神も壁龕によく残っております。特にスヴァルガブラフマー寺院は保存状態がよく、方位神とシヴァ神の彫刻がほぼ完全に残っています。サンガメッシュヴァラ寺院に比べ幾何学模様などを多用し、すっきりまとまっています。



写-5 「ヴィシュヴァブラフマー寺院」



写-6 「スヴァルガブラフマー寺院」

今回南インドのデカン高原を訪れた目的はハンピの遺跡、アランプールの遺跡、バッターダカル、バーダーミ、アイホーレの遺跡の見学ですが、その他にラジャガウリ (LAJJA GAURI) の彫刻をぜひ見たかったためです。写真で見たのですがとても不思議な女神像で、頭は蓮の花、両手に蓮の花を持ち、足を開き外陰部をさらけ出したショッキングな彫刻です。一般的には大地の女神として、多産信仰を表します。この大地の女神は有史以前から世界各地で信仰され、インドにおいては2世紀から11世紀にかけて沢山の像が造られました。特に南インドのデカン地方では盛んに作られました。この女神の姿勢は産婦の出産を表します。出産は再生の象徴として多産崇拝を生み、飢饉、戦争、病気などで子供の死亡率が高くなるので種の繁殖のために多産が必要であるからです。小さい像はテラコッタなどで作られ、主に家庭で拝まれました。ほとんどは石に彫られ寺院に奉納されました。また地面の石に直接彫り、そこを祠にした所もあります。



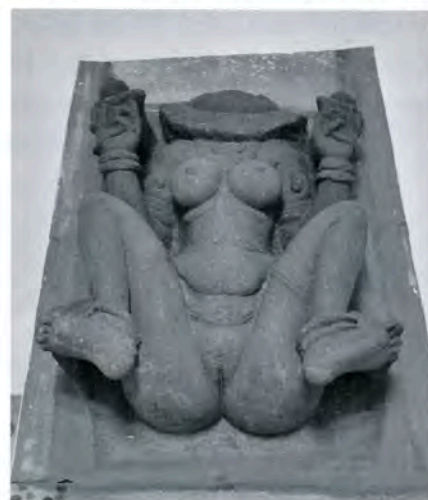
写-7 「アランプール博物館 LAJJA GAURI」

まずはアランプールのブラフマー寺院群の中にある博物館へ行きます。この博物館にはすばらしい彫刻が沢山あります。その中で鍵のかかる部屋の床にLAJJA GAURIの傑作の一つが安置されています(写-7)。頭は蓮の花、両手に蓮の蕾を持ち、豊満な胸に足を開き出産の体勢をとっています。蓮はヒンドゥー教徒にとっても仏教徒にとっても最も神聖な花で、汚れない菩薩の心に例えられています。首にはネックレス、腕にはブレスレット、足にはアンクレットを着けており、良質の黒っぽい石にとってもリアルに彫刻されています。信者により花輪が捧げられ、信仰の証である赤い粉が塗られています。この博物館にはもう一体ありますがあまり出来が良くない



写-8 「アランプール博物館 LAJJA GAURI」
 ので他の彫刻と一緒に展示されています(写-8)。

もう一つの傑作はバーダーミの博物館にあります。



写-9 「バーダーミ博物館 LAJJA GAURI」も蓮の花を持ち

バーダーミの遺跡については次回にお話ししますので、まずは博物館へ行きます。ここでも専用の部屋に安置されています(写-9)。一番有名なLAJJA GAURI像で頭は蓮の花、両手にも蓮の花を持ち



写-10 「マハークータ寺院境内」

ほとんどアランプールの像と同じですが、立体感があります。アクセサリーも沢山着けており、保存状態もよく素晴らしい像です。ここでは残念なことに展示物になってしまって信者の信仰の証がありません。

博物館ではなく寺院に安置されている像を見つけました。場所はバーダーミの近郊のマハークータ(MAHAKUTA)という聖地にあるマハークータ寺院の境内にありました(写-10)。沐浴場の隣にあの蓮の頭そして両手に蓮の花を持ったLAJJA GAURI像です(写-11)。

惜しくも下半分は崩壊していますが一目で分かります。バーダーミ博物館にあった像ととても良く似ています。バーダーミ博物館の像はマハークータ寺院から車で20分ほどの所にあるナーガナータ寺院(NAGANATHA)



写-11 「マハークータ寺院 LAJJA GAURI」

で発見されたも(写-12)。ナーガナータ寺院は7世紀の中頃の建立で、初期チャールキヤの特徴を持った重要な寺院です。

最後に洞窟の地面の石に彫られたRAJJA GAURI像を



写-12 「ナーガナータ寺院」



写-13 「シッダナコーラ村洞窟」

見に行きます。マハークータから車で1時間半ほど行った森の中にシッダナコーラ(SIDDHANAKOLLA)というとても小さな村があります。村の中心に洞窟があり村人達に守られた自然の祠です(写-13)。ここは神聖な場所で洞窟の裏には小さな滝があり、すぐ前は寺院です。洞窟と行っても奥行きはあまりなく自然光が入ります。入口にリングが置かれその先の地面の自然石に像が彫られています(写-14)。蓮の花の頭、豊かな胸、開かれた両足、さらされた外陰部、豊富なアクセサリーなどいつもの特徴を備えています。両手に蓮を持っていません。村人により花や赤い粉がつけられています。博物館に展示されている像とは違って生きているRAJJA GAURIの像です。前に立って手を合わせると博物館にはない、人々のエネルギーを感じます。大地の女神そして多産信仰は有史以前から世界中でおこり、もちろん日本でも五穀豊穡の収穫祭などとして続いてきました。

今回南インドを旅して感じたのは人々のエネルギー

ーです。北インドでは味わえない心の浄化を感じたすばらしい旅でした。南インドには北インドにない独自の文化、歴史があり、違う国と言ってもよいほどです（ちなみに北インドはチャイとチャパティ、南インドはコーヒーとお米）。



ぜひ一度 写-14 「シッダナコーラ LAJJA GAURI」
南インドを体験することをお勧めします。

